

第3回千葉氏サミット 千葉氏が生きた中世のまちと人々の暮らし

—肥前千葉氏と小城—

小城市教育委員会文化課 古庄秀樹



須賀神社(祇園社)

はじめに

千葉氏と小城のかかわり

- ・常胤は源頼朝の鎌倉幕府創設を支援。恩賞の一つとして小城郡の惣地頭を得る。惣地頭とは地方の小地頭を統率する立場。
- ・千葉氏の当主は代官を派遣。代官 僧果忍坊
「三岳寺文書」
- ・中山法華経寺(千葉県)の古文書には小城の小地頭を引き連れて、千葉氏が京都の御所の造営にあたっていたことが記されている。
- ・小城の小地頭たち
東郷の次郎、あかしの執印、大宮司入道、小城氏(宇佐氏)
「日蓮遺文紙背文書」

頼胤・宗胤の下向

頼胤（常胤から5代目）

蒙古襲来時に小城に下向。文永の役で傷を負い
小城で死去する。

宗胤

頼胤の死去後、宗胤が下向。円通寺の再興を行
う。九州千葉氏の祖といわれる。

千葉氏の仏教美術

- ・仏像制作は運慶から4代目の湛康で当時一流の仏師。
- ・円通寺の多聞天像の体内には永仁2年(1294)に「大仏師湛康」が制作したことが記されている。三岳寺の薬師如来、大日如来、十一面観音も湛康の制作と考えられている。
- ・いずれの仏像も力強い表情で圧倒的な存在感がある。当時の世相を反映したものと考えられている。佐賀県重要文化財。



円通寺の持国天像

三岳寺の三尊



十一面観音

薬師如来

大日如来

胤貞の下向



千葉胤貞像（光勝寺蔵）。胤貞は宗胤の死後、小城の所領を相続した。

胤貞と小城(1)

- ・胤貞は下総にも所領を持ち、足利尊氏方に属し、各地を転戦した。従兄弟の貞胤は新田義貞方に属し対立していた。後に胤貞は貞胤と和解し下総に戻る途中に三河国で死去した。
 - ・千葉城(牛頭城)の築城
 - ・祇園社(須賀神社)の造営
山挽きを始める。
 - ・松尾山光勝寺の建立
 - ・妙見信仰
 - ・内砥川八幡社の造営
- 他にも市内には胤貞ゆかりの寺社が数多く残る。



胤貞は祇園社の祭礼である山挽きを始めたとされる。平成29年の山、右側の山が下町の山で、当時の形を伝えるという。

胤貞と小城(2)

* 日蓮宗の展開

- 胤貞は中山法華経寺の僧日祐を開山として光勝寺を建立。光勝寺は九州における日蓮宗布教の拠点、鎮西本山。

- 市内には日蓮宗寺院が数多く存在する。勝妙寺には日蓮や中山法華経寺歴代貫首の曼荼羅が伝わる。



光勝寺(小城町松尾)



日蓮曼荼羅本尊

千葉城について

- 千葉城(別名、祇園岳城、牛頭城など)
- 胤貞が築城したと伝えるが詳細は不明。
- 古文書では
「今村利廣軍忠状」観応2年(1351)「御城水手」
「草野永幸軍忠状」正平10年(1355)「小城之城」
が最も古い記述。
- 千葉城の廃城 『北肥戦誌』によると、
天文14年(1545)に龍造寺氏に攻められて落城し廃
城となった。

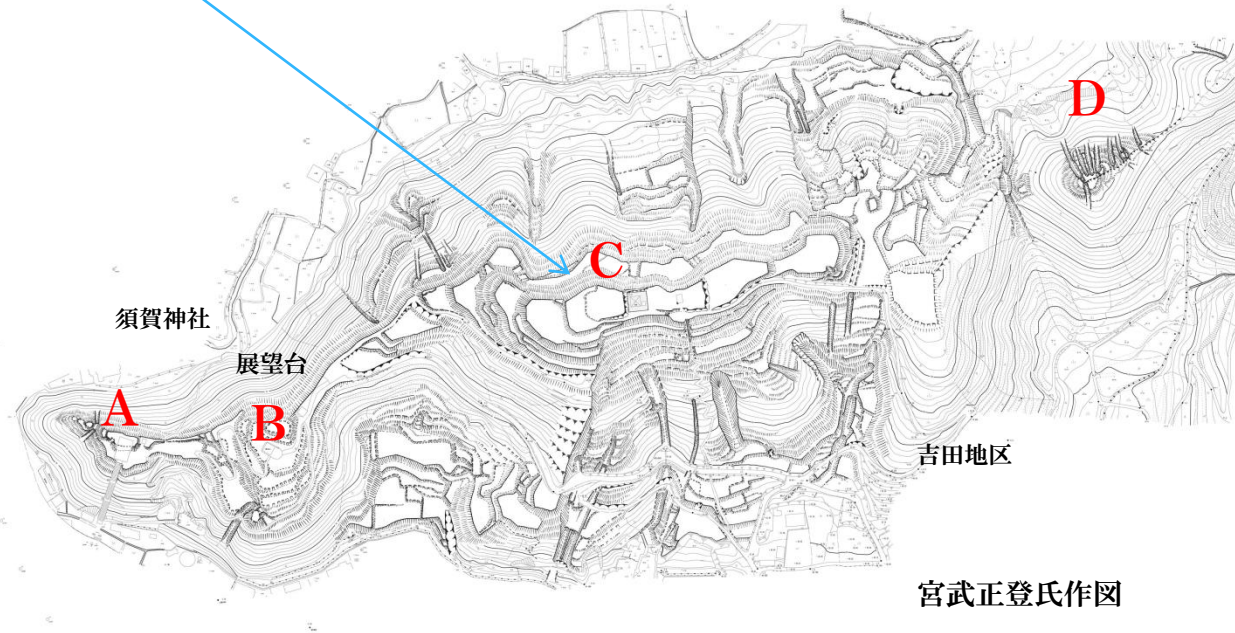
千葉城の全景



千葉城の縄張り図

主郭

北浦地区



千葉城は東西900m、幅300mの巨大な山城で曲輪、堀跡が残る。肥前屈指の山城。横堀や虎口が発達していない古いタイプの縄張りを示している。

千葉城の調査から



発見された石垣



豎堀の調査

千葉城の出土遺物

・主郭(本丸)から土塁、建物跡を確認、かわらけ、中国産・朝鮮王朝・ベトナム産の陶磁器が出土。豪華品が多く、主郭建物の調度品と考えられる。「かわらけ」は武士の儀礼(式三献)に使われた酒器で調度品が飾られた室内で宴席が行われたことを示す。宴席は主従関係を確認する貴重な儀式であった。

・これまでの研究では山城には本格的建物はないとされてきた。山城の再評価が必要。



千葉城出土の外国産陶磁器

千葉氏の館跡（妙見遺跡）

- ・館跡は清水川左岸の千葉城北側の北浦地区一帯。
- ・妙見菩薩を祭る北浦社がある。
- ・「犬ノ馬場」、「ゲンタ屋敷」、「下馬」の地名があり、武士の屋敷があったことを想像させる。
- ・発掘調査で建物跡、溝跡、井戸跡、柵の跡が確認され大量の遺物が出土した。



妙見遺跡から出土した土鍋、火鉢、かわらけなど

千葉氏の守り神



北浦社(上) 妙見菩薩(右)



『海東諸国紀』の千葉氏と小城

千葉殿

己卯年、遣使来朝す。居は小城に有り。北は博多を距たること十五里、民居一千二百余戸、正兵五百余あり。書に肥前州小城千葉介元胤と称す。歳遣一舩を約す。

『海東諸国紀』1471年

李氏朝鮮の領議政であった申叔舟が記述した当時の日本の案内書。その中に「千葉殿」が見える。

己卯年(1459年)

小城・・・民居1200余戸

正兵 500余

※肥前国内では最大の都市で、北部九州でも大きな都市のひとつである。

『海東諸国紀』による勢力の比較

都市 (筑前国)	民居	正兵
博多	万余戸	
大宰府(少貳殿)	2200余戸	500余
住吉 (豊後国)	300余戸	
府中(大友殿)	万余戸	2000
(肥前国)		
綾部(節度使)	1000余戸	250
小城(千葉殿)	1200余戸	500余
(肥後国)		
隈府(菊池殿)	所管の兵	2000余

千葉城下の古町遺跡

- ・『元茂公年譜』江戸時代

「城下に家中の小路・屋敷があり上河原から下河原まで東西に町を立て、小城町といった」とある。中世には祇園川沿いに町場があったと記す。

- ・祇園川南岸の古町遺跡では掘立柱建物跡、溝跡などが確認され陶磁器や土師器類が出土。注目すべきものに鍛冶に関わる遺物があり、鍛冶屋があった可能性がある。

- ・発掘調査によって書物の記載が確認された。



古町遺跡の出土遺物

中世小城の景観



・千葉城の北側に千葉氏の館を中心とした武士の居住区があった。

・千葉城の南側の祇園川の南岸に城下集落があった。古町遺跡。

祇園川の河川交通と陸路が交差する交通の要衝の地である。

・千葉城の西方に光勝寺、円通寺など宗教施設がある。

光勝寺裏山の発掘調査



光勝寺の裏山を階段状に整え(7段)、
多くの石塔群を安置する。1200点を
超える石材。原位置のものは380基。



様々な石塔



五輪塔



宝篋印塔



板 碑



笠塔婆

- 15世紀から16世紀かけて営まれている。
- 墓ではなく供養塔。

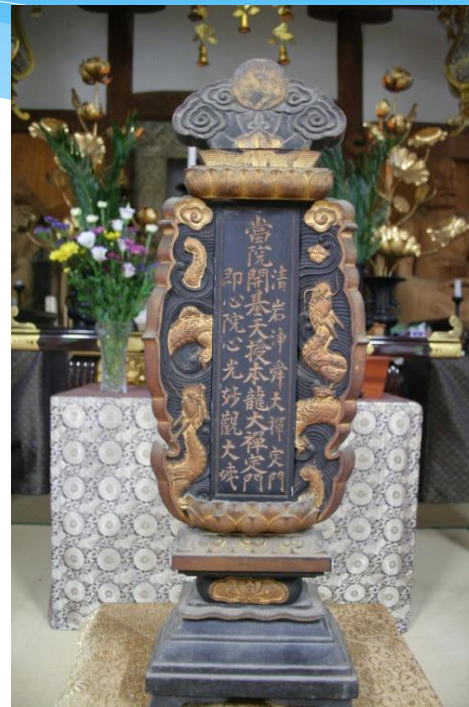
千葉氏の分裂と衰退

• 分裂のきっかけ 東西千葉氏

元胤の子教胤は大村氏を攻め、敗死している。教胤の死で嫡流が絶え、胤朝が跡を継ぐが弟の胤将に討たれる。以後、少弐政資は弟の胤資に千葉氏を継がせる。西千葉氏(晴気城)。また、もう一方では胤盛系の興常が大内義興の支援を受け東千葉氏となる(千葉城)。

• 衰退 龍造寺・鍋島氏から家名存続へ

永禄2年(1559)、胤頼(東)は胤連(西)と龍造寺隆信によって晴気城に攻められ自害。子の胤誠は神代氏を頼り、伝来の家宝を持ち落ちのびる。胤連は隆信に取り立てられ、子の胤信は龍造寺・鍋島氏に仕え、一時鍋島を名乗るが千葉の名字に復し、佐賀藩の着座となる。胤連、胤信は「屋形」と呼ばれていた。



胤頼の位牌(本龍院)

千葉から 鍋島へ

- ・小城鍋島家屋敷が桜岡に作られ城下町が形成された。

- ・元茂が江戸時代初めに戦乱で荒廃した千葉氏の町を上町・中町・下町に作り直した。



おわりに

- 鎌倉時代に千葉氏は鎌倉や京都に屋敷をもっており、千葉氏は鎌倉や京都の文化を小城に持ち込んだ。祭礼、信仰、仏教美術など。
- 中世の肥前国の覇者は千葉氏。龍造寺氏、鍋島氏の上位にあった。小城は千葉氏の拠点として繁栄していた。
- 小城には現在も中世文化が色濃く残されている。小京都、小鎌倉とも呼ばれる。



円通寺多聞天像